

平成 23 年度さぬきの米を考える研修会資料

平成 24 年 3 月 23 日 (金)

香 川 県 農 業 再 生 協 議 会

平成 23 年度 さぬきの米を考える研修会 開催要領

1. 目 的

国は、水田を最大限に活用し食料自給率向上を図るため、水稻と麦、大豆、飼料用米・米粉用米等の戦略作物等を始めとする土地利用型作物の生産振興を図っている。

一方、本県の米については、全国的な米の消費量低迷と生産過剰の中、需要量が確保できず生産数量目標の配分が減少しており、今後は、需要量を維持拡大するとともに、営農計画調査に沿った作付面積の維持と不作付地解消の手段として飼料用米等の新規需要米の取組も推進する必要がある。

そこで、「売れる米づくり」のための品質向上対策や、実需者の県産米への評価を聞き、今後の県産米評価向上に向けた活動を推進するため、標記研修会を開催する。

2. 主 催 香川県農業再生協議会

共 催 香川県、香川県農業協同組合中央会、香川県農業協同組合

3. 日 時 平成 24 年 3 月 23 日 (金) 13:30~16:15

場 所 「丸亀市綾歌総合文化会館 アイレックス」

丸亀市綾歌町栗熊西 1680 番地 TEL 0877-86-6800 (代)

4. 研修内容等

時 間

1) 開 会

13:30

2) 県産米の生産振興について

(1) 平成 24 年度水稻生産方針

13:40

(香川県 農政水産部 農業生産流通課 課長補佐 岡崎力)

(2) 水稻品質向上のために

13:50

(香川県 農政水産部 農業経営課 主席専門指導員 大山興央)

(3) 県産米の生産・集荷・販売方針 ~新たな事業構築に向けて~

14:30

(JA香川県 営農部 農産課 課長 北岡泰志)

休 憩

14:40

3) 講 演

14:50

香川県産米に望むこと

(講師; 幸南食糧株式会社 取締役会長 川西修氏)

4) 質疑応答

15:50

5) 閉 会

16:15

5. 参集範囲 (約 500 名程度)

米麦生産者・団体、実需者団体、土地改良区等役員、地域農業再生協議会、市町、香川県農業共済組合連合会、農業共済組合、高松地域センター、香川県農業会議、農業委員、香川豊南農業協同組合、香川県、香川県農業協同組合中央会、香川県農業協同組合

平成 23 年度 さぬきの米を考える研修会 次第

1. 開 会

2. あいさつ

3. 研 修

1) 県産米の生産振興について

(1) 平成 24 年度水稲生産方針

(香川県 農政水産部 農業生産流通課 課長補佐 岡崎 力)

(2) 水稲品質向上のために

(香川県 農政水産部 農業経営課 主席専門指導員 大山 興央)

(3) 県産米の生産・集荷・販売方針 ～新たな事業構築に向けて～

(J A香川県 営農部 農産課 課長 北岡 泰志)

2) 講 演

香川県産米に望むこと

(講師 幸南食糧株式会社 取締役会長 川西 修氏)

3) 質疑応答

4. 閉 会

香川県産米に望むこと

～ 21世紀型の農業は企業経営と同じような考え方が必要である～

2012年3月23日（金）

幸南食糧株式会社

取締役会長 川西 修

- ・ 人生も農業経営も目標をしっかりと持つ
- ・ 我慢する心 あきらめない心
- ・ 消費者の変化に対応出来る農業経営
- ・ 農業の最大のライバルは消費者の変化
- ・ 私と香川県 さぬき米との出会い（パートナーとしてふさわしい産地を選ぶ条件）
- ・ 東日本震災後、消費者（消費地）の変化
- ・ 香川県産米に期待するもの
- ・ 21世紀は更に窮屈な時代になる
- ・ ブランドは消費者の心の中にある
- ・ 若い人が希望を持てる農業にするには今の大人の責任だ
- ・ 和食が無形文化財（ユネスコ）に登録されようとしている
- ・ 農業のグローバル化の波は避けて通れない